

Title	編集後記；奥付
Sub Title	
Author	尾島, 司郎(Ojima, Shiro)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2011
Jtitle	Newsletter Vol.15, (2011. 3) ,p.8- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000015-0090">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000015-0090</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## プレスリリース情報

慶應義塾大学グローバルCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点」の渡辺茂教授と同学振特別研究員（グローバルCOE）の一方井祐子<sup>いっかたい</sup>は、ブンチョウにも絵画の好みがあるらしいことを突き止めました。これまでに渡辺教授の研究では、ハトが訓練すればモネやピカソなどの画風を見分けることなどを報告してきました。しかしながら、これらの研究は訓練すれば絵の区別がつくことを示すものであり、絵の好みがあるかどうかは分かりませんでした。この研究は、実際の絵画を使って鳥類に好みがあることを調べた最初の報告となります。このことを2010年12月27日に慶應義塾よりプレスリリースし、日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞など各紙で広く報道されました。

※朝日小学生小学生新聞（2011年1月8日）より転載



慶應義塾大学の渡辺茂教授と後藤和宏博士（現・京都大学）のグループは、九州大学の伊藤功准教授のグループと共同で、脳の非対称性に異常のある（左右の脳がともに右脳の性質を示すように変化した）突然変異マウスは、正常なマウスと比べて、空間記憶機能が障害されることを明らかにしました。この結果は、脳の左右の非対称性が正常な記憶機能に欠かせないことを示唆しています。マウスの記憶を司る海馬は、正常なマウスでは左

右の脳で異なる性質を示すのに対し、この突然変異マウスでは左右どちらの脳も右型の性質を示します。今回の研究は、そのような脳機能の非対称性が、正常な記憶機能には欠かせないものであることを明らかにしました。本研究成果は、科学誌「PLoS ONE」に掲載され、時事通信や日経産業新聞など各紙で広く報道されました。

## 活動予定

### ■ 第3回日中哲学フォーラム

開催日：2011年4月16・17日（土・日）

会場：三田キャンパス東館

テーマ：「グローバル化における文化・思想の普遍性と特殊性—西洋と東洋の間で」

「現代における生と死のダイナミズム—人間・生物・宇宙」

### ■ Introspection in humans, animals, and machines

開催日：2011年5月初旬～中旬（予定）

会場：三田キャンパス（予定）

講演者（予定）：Jerome Sackur（仏・ENS）、増田早哉子（慶應義塾大学CARLS）、後藤和宏（京都大学）、宮田裕光（学振特別研究員）他

**編集後記** 2010年度を締めくくる Newsletter をお届けします。

今回もシンポジウムやワークショップの報告が多数なされていますが、一つのハイライトは「美学」にあります。拠点の特色を反映して、進化、知覚、発達など複数の観点からの美学へのアプローチが見られます。近年、著名な神経科学者が美学認知について著していますが、神経科学も含めて、美学が一つのうねりを引き起こしつつあることを感じます。巻頭言では美学同様、複雑な視覚認知である、「顔」の認知について、学際的な視点から述べて頂きました。今後の人文および自然科学研究は、分野横断的な手法がますます重要になっていくでしょう。拠点の方向性の確かさが感じられます。

執筆者の皆さまには心から感謝申し上げます。

（尾島司郎）

## 新刊紹介

### ■ 2010年度成果・活動報告書

2010年度における本拠点の研究成果をまとめた報告書2冊をご紹介します。CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility, Vol. 4は事業推進担当者や特別研究教員・研究員、研究協力者らの今年度の研究成果をまとめた論文集（欧文）です。

『論理と感性の先端的教育研究拠点活動報告書 Vol. 4』は、今年度開催したシンポジウム・研究会等の布告と拠点メンバーの著書・論文、学会発表等の業績をまとめたものです。入手方法につきましては、事務局までお問合せください。



慶應義塾大学 論理と感性の先端的教育研究拠点  
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility  
Newsletter 2011. March. No. 15

発行日 2011年3月24日

代表者 渡辺茂

〒108-0073 東京都港区三田3-1-7 三田東宝ビル 8F

TEL: 03-5427-1156

FAX: 03-5418-6728

keiocarls@info.keio.ac.jp

http://www.carls.keio.ac.jp/